

梅雨時、湿気を避けて保管

梅雨明けも近づき、風薫る頃となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

夏が近づくと気温や湿度が高くなり、食品などの保管にも気を使うことが多くなりますが、お薬の保管はどうされていますか？

お薬は「直射日光を避け、湿気の少ない所に保



[115]

松阪地区薬剤師会

管」が基本となります。

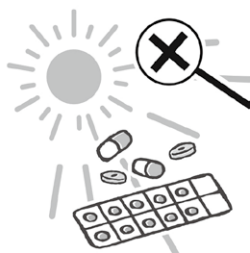
保管方法について特に指示がない場合は、快適な部屋の温度（おおよそ15〜25度）に保管するのが望ましいとされます。

炎天下の車の中やお風呂場など、高温多湿になる場所には置かないようにしましょう。

特に、包装から出した錠剤やカプセル剤などは軟らかくなり変質することがあります。クリーム剤などは分離してしまうこともあるので注意が必要です。

色やにおいが「いつもと違う」と感じたときは使うのをやめましょう。冷所保存と指示がある場

合（シロップ剤、目薬、座剤、未使用のインスリンなど）は冷蔵庫の扉側や野菜室に保管し、凍らないようにしてください。錠剤や粉薬などは冷蔵庫に保管することもできますが、出し入れの際



の急激な温度変化による結露で湿気を帯びることがありますので、ご注意ください。

またお薬を保管する際は、誤って取り違えたりすることを避けるため、お薬以外の物と一緒に

置かないようにしてください。目薬はシップなどと一緒に置いておくと、シップの揮発成分が容器を通じて目薬に溶け込むことがあるため、分けて保管しましょう。

もちろん小さいお子さまの手の届かないところで保管すること、期限が分らないものは使わないことなど気を付けましょう。

少しでも気になる時は薬剤師にご相談ください。ね。梅雨明けの頃、青空と白い雲の下で皆さまが笑顔ですごせますように。（薬剤師 西 美香）